

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	博物館情報・メディア論 [Museum Mediation and Communication]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	710106	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	武田 信也				学位授与の方針 との関連	DP1(1)	
授業概要	博物館、資料館においては、過去を記録したメディア(史料や資料)を扱い、主に展示という形で発信を行っている。活動周知のためにはメディアとしてのマスコミの力を借りており、個人の情報収集能力や発信力が高まる中で、学芸員は立ち位置をどこに求めるか問われている。本講義では、これまでの経験を踏まえて、博物館の学芸員の立ち位置で、関係するメディアの諸相を考え、今後あるべき学芸員の姿を検討する。						
関連する科目	3年次開講の科目として理解を深めるために、学芸員資格取得に関する科目(必修科目)のうち、基礎的な2年次開講の科目を履修しておくことが望ましい。また他の3年次開講科目を履修することが望ましい。						
授業の進め方と方法	前半はメディアとしての史料(資料)の特性と展示制作での利用方法を考え、後半は、展示の実践例を見ながらあるべき展示の姿を考えて行く。今年度は、展示史料を深く読み込み、伝えるべき情報を引き出す技法や能力を養うことを予定している。						
授業計画	<p>第1回 メディアとしての博物館展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○動物園、植物園、美術館、博物館、資料館</li> <li>○本授業の内容説明</li> </ul> <p>第2回 博物館における情報・メディアと学芸員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○史料は過去を知るメディアである</li> <li>○介在者としての学芸員とデジタルアーカイブ</li> <li>○学芸員は何のために存在するのか</li> </ul> <p>第3回 博物館における情報・メディア整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料整理は展示と表裏一体</li> <li>○都城島津家史料目録調査、佐土原島津家文庫、上代日向研究所旧蔵書の整理から</li> </ul> <p>第4回 メディアとしての文字史料と特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○展示メディアの主役</li> <li>○低下する日本人のリテラシー能力</li> </ul> <p>第5回 メディアとしての非文字史料と特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生き字引が消える時</li> <li>○オーラルヒストリー</li> </ul> <p>第6回 メディアとしての画像資料と特性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○画像には文字情報が必要</li> <li>○画像資料の分かりやすさは両刃の剣</li> </ul> <p>第7回 メディアリテラシーを考えるその1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文字史料</li> </ul> <p>第8回 メディアリテラシーを考えるその2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○画像資料</li> </ul> <p>第9回 メディアリテラシーを考えるその3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタルの力を活用するには</li> <li>○「地域資源」をどうやって発信するのか</li> </ul> <p>第10回 メディアを使った展示制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○取材する側の見方を意識する</li> <li>○展示製作の禁じ手とは</li> <li>○誰にでも見やすい展示とは</li> </ul> <p>第11回 各メディアを駆使した展示実践その1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「和本の中の近代」</li> </ul> <p>第12回 各メディアを駆使した展示実践その2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ぶらぶら日向路」</li> </ul> <p>第13回 史(資)料を使った展示の組み立て方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵葉書、パンフレット等の使い方</li> </ul> <p>第14回 各メディアを駆使した展示実践その3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ぶらぶら日向路Ⅱ」</li> </ul> <p>第15回 まとめ</p>						
授業の到達目標	各メディアの持つ特性・限界を認識するとともに、実際の展示実践から、机上の理論では学べない経験則を導き出し、共有する。その上で、組織としての博物館や、学芸員としての社会的使命を自覚し、社会一般に対し展示やその他の活動を通じて能動的に発信できる人材となること。						
授業時間外の学修	授業で配布された資料と、講義をノートした内容を復習しておくこと(1時間)。また、機会をとらえて自ら博物館等に足を運び、展示を作る側の視点から観覧してみること(1時間)。						
課題に対するフィードバック	試験またはレポートについては、評価後返却および解説を行う。			評価方法	試験またはレポート提出(80点)、授業終了前、または次回の授業開始時に理解度と定着度を見る小テストを行う(20点)。		
テキスト	プリント配布						
参考書	なし						
備考							